

在セネガル日本国大使館月報

2025年7月

主な出来事

セネガル

(内政)

- 10日、ソンコ首相は、自身が党首を務めるPASTEFの全国会合において、ファイ大統領の統治姿勢を暗に批判。改革実行に向け自身に統治を任せよう要求。これを受け、ファイ大統領は14日、ソンコ首相との間に衝突はないと発言。(11日 RFI、15日 Le Soleil)
- 18日、在セネガル仏軍部隊が撤退を完了し、基地がセネガルに返還された。(18日 Le Soleil)

(外政)

- 9-10日、ファイ大統領はモーリタニア、リベリア、ガボン、ギニアビサウの大統領とともに訪米。9日、トランプ米大統領と会談。トランプ大統領は、ファイ大統領は素晴らしい仕事をしたと賞賛。10日、IMF、世界銀行、ミレニアム挑戦公社及び企業関係者らとラウンドテーブルを開催。(10-11日 Le Soleil)

(日本関連)

- 24日、対セネガル共和国無償資金協力「経済社会開発計画」による地雷除去機材の引渡式が開催された。赤松駐セネガル日本国大使、ソンコ首相、ファル外務大臣、ジョップ国防大臣が出席。(25日 Le Soleil)

(経済)

- セネガル政府は2026-2028年の経済財政計画書を公表し、同期間の経済成長率が5.5%に達するとの見通しを示した。(2日 Le Soleil)

カーボベルデ

- 1日、世界銀行は、カーボベルデの一人あたりの所得の増加を反映し、所得分類を下位中所得国から上位中所得国に引き上げたことを発表。(2日 Expresso das Ilhas)
- 5日、カーボベルデは独立50周年を迎え、大統領府で記念式典が開催された。(5日 RFI)

ガンビア

- 7日、現行の1997年憲法を刷新すべくジャロウ法務大臣により国民議会に提出された2024年憲法草案が国民議会にて否決された。(8日 The Point)
- タンガラ外務大臣が辞任し、AUC特別代表に就任。新たにセリング・モドゥ・ニエが外務大臣に任命。(8日 Le Quotidien、9日 大統領府HP)

ギニアビサウ

- 7日、エンバロ大統領が訪米。9日、アフリカ4首脳とともにトランプ大統領との会合に出席。また、ビジネス円卓会議において米国の企業家に向けて投資を呼びかけた。(9日 ANG)
- 13日、ギニアビサウの西に位置するビジャゴス諸島が第47回世界遺産委員会において自然遺産に登録された。(13日 O Democrata)

セネガル

(内政)

内政一般

- 10日、ソンコ首相は、自身が党首を務めるPASTEFの全国会合において、ファイ大統領の統治姿勢を批判。改革実行に向け自身に統治を任せよう要求。これを受け、ファイ大統領は14日、ソンコ首相との間に衝突はないと発言。(11日 RFI、15日 Le Soleil)
- 18日、ファイ大統領は、高等教育・研究・イノベーション改革に関する国民アジェンダ会議に出席し、セネガルの大学の根本的な改革の必要性を訴えた。(18日 Le Soleil)
- 18日、在セネガル仏軍部隊が撤退を完了し、基地がセネガルに返還された。(18日 Le Soleil)

(外政)

二国間・多国間関係

- 5日、ファイ大統領は、カーボベルデの首都プライア市で開催された同国独立50周年式典に出席。ネーヴェシュ・カーボベルデ大統領、エンバロ・ギニアビサウ大統領と会談。(7日 Le Soleil)
- 9-10日、ファイ大統領はモーリタニア、リベリア、ガボン、ギニアビサウの大統領とともに訪米。9日、他のアフリカ首脳とともにトランプ米大統領と会談。トランプ大統領は、ファイ大統領は素晴らしい仕事をしたと賞賛。10日、IMF、世界銀行、ミレニアム挑戦公社及び企業関係者らとラウンドテーブルを開催。(10-11日 Le Soleil)
- 6月に開催されたFOCAC成果実行調整者閣僚級会議において表明された中国の対アフリカゼロ関税措置に関して、8日、共同发展経済パートナーシップ協定がセネガルと締結されたことが中国当局により公表。他、ガンビア、ソマリア、ザンビア、ベナン、ガーナとも締結。(9日 Le Soleil)
- 11日、ンジャイ国民議会議長は、仏語圏議会総会のためパリを訪問し、マクロン仏大統領主催のレセプションに出席。(14日 Le Soleil)
- 15日、ファイ大統領はベナンを訪問し、タロン大統領と会談。(16日 Le Soleil)
- 18日、ファイ大統領はギニアビサウで開催されたポルトガル語諸国共同体(CPLP)首脳会合に出席。(18日 大統領府 X)
- 25-26日、ファイ大統領はトーゴとリベリアを訪問。ニヤシンベ大統領、ボアカイ大統領と会談。(26日 Le Soleil)

日本関連

- 15日、ABEイニシアティブ及びSDGsグローバルリーダーズ参加者による帰国報告会が開催され、留学生らが日本での経験について報告。(16日 Le Soleil)
- 24日、対セネガル共和国無償資金協力「経済社会開発計画」による地雷除去機材の引渡式が開催された。赤松駐セネガル日本国大使、ソンコ首相、ファル外務大臣、ジョップ国防大臣が出席。(25日 Le Soleil)
- 30日、保健分野での日本の協力にかかる運営委員会が開催された。(31日 Sud Quotidien)

(経済)

経済一般

- セネガル政府は2026-2028年の経済財政計画書を公表し、同期間の経済成長率が5.5%に達するとの見通しを示した。(2日 Le Soleil)
- 24日、セネガル宇宙調査局は、米国ワシントンのNASA本部において、アルテミス合意に署名。世界

で56番目、アフリカで4番目の署名国となった。(26日 Le Soleil)

- 24日、IMFは8月末にセネガルへ調査団を派遣することを公表。セネガルの既存のIMFプログラムの取り扱いに加えて、新規プログラムについても協議する予定。(26日 Le Soleil)

(社会)

- 1日、高等教育資格(バカロレア)試験が始まった。受験者数は、166,402人(女性59.08%)。(1日 Le Soleil)
- 14日、バカロレア事務局は今年のバカロレア試験の暫定結果を公表。合格率は42.85%(昨年は48.71%)。(15日 Le Soleil)

(文化・スポーツ)

- 10日、国際サッカー連盟(FIFA)は、7月のFIFAランキング(男子)を公表し、セネガルは世界18位に位置づけられた(日本は17位)。(11日 Le Soleil)
- セネガルのメディア関係者は、中国国際通信グループのプログラムで北京にて開催されるセミナーに参加。中国の発展モデルに関する経験について議論。(18日 Le Soleil)
- 19日、ダカール・ユースオリンピック委員会は大阪・関西万博に出席し、セネガルパビリオンにてセネガル相撲のデモンストレーション等を行いつつ2026年に開催されるダカール・ユースオリンピックの広報を行った。(22日 Le Soleil)

カーボベルデ

- 1日、世界銀行は、所得分類を下位中所得国から上位中所得国に引き上げたことを発表。(2日 Expresso das Ilhas)
- 3日、政府は、世界5大陸におけるカーボベルデ移民の統計情報を収集するため、ディアスポラマッピング調査を開始。90日間かけて42か国以上で実施される。(3日 Noticias do norte)
- 4日、中国を訪問中のコスタ・ロシャ内務大臣は、中国との間で実施しているセーフシティ・ビデオ監視システムについて、現在実施中の4都市(プライア、ミンデロ、サル・レイ、サンタ・マリア)から新たに3都市(ポルト・ノボ、アソマダ、タラファル)に拡大する第3フェーズの資金調達の可能性について協議中である旨述べた。(4日 Expresso das Ilhas)
- 5日、大統領府でカーボベルデ独立50周年記念式典が開催され、レベロ・デ・ソウザ・ポルトガル大統領、ファイ・セネガル大統領、エンバロ・ギニアビサウ大統領、アンリ・ルクセンブルク大公、レヴィ・モザンビーク首相、モハメッド国連副事務総長が出席した。(5日 RFI)
- 8日、EU理事会は、2021年3月に設置された欧州平和支援メカニズムに基づく最初の支援として、カーボベルデ国軍の能力強化(海洋安全保障の向上)のため2年間で1,200万ユーロの支援を承認した旨発表。(8日 Expresso das Ilhas)
- 9日、IMF理事会は、拡張クレジット・ファシリティ(ECF)第6回レビュー結果を承認し、ECFの15か月延長と30パーセント相当の増額、並びに強靭性・持続可能性ファシリティ(RSF)の15か月の延長を承認したと発表した。(10日 Expresso das Ilhas)
- 16日、ネーヴェシュ大統領はセネガルを訪問し、ファイ大統領と会談。(17日 Le Soleil)
- 22日、エウリコ・モンテイロ投資促進・事業開発大臣は、カーボベルデの2023年のGDP成長率が4.

8%を記録したことを公表し、新型コロナウイルスの影響を受けた経済が着実に回復していることを強調。(22日 balai CV)

- 22-25日、フォンセカ元大統領は、オバサンジョ・ナイジェリア元大統領、キクウェテ・タンザニア元大統領、マヤキ・ニジェール元大統領、カベルカ元アフリカ開発銀行総裁等とともに食料安全保障と持続可能なブルーエコノミーに重点を置いたアフリカ開発に関する国際会議・シンポジウム(当館注: 笹川平和財団主催「賢人会議J)出席のため訪日した。(23日 balai CV)
- 2024年国立統計研究所(INE)が実施した聞き取り調査によると、同年の15歳以上の識字率は88.5%(都市部90.1%、農村部83.5%)だった。(24日 balai CV)
- 29日、予算総額4億3,000万米ドルを投じた新米国大使館の起工式が執り行われ、駐カーボベルデ米国大使、コレイア・エ・シルヴァ首相及びカルバーリョ・プライア市長が出席した。(29日 在カーボベルデ米国大使館サイト)

ガンビア

- タンガラ外務大臣が辞任し、AUC特別代表に就任。新たにセリング・モドゥ・ニエが外務大臣に任命。(8日 Le Quotidien、9日 大統領府HP)
- 7日、現行の1997年憲法を刷新すべくジャロウ法務大臣により国民議会に提出された2024年憲法草案が国民議会にて否決された。(8日 The Point)
- 7日、バロウ大統領はモハメド国連副事務総長を迎え、ガンビアの持続可能な経済発展に向けた協力について協議。(7日 大統領府HP)

ギニアビサウ

- 7日、エンバロ大統領が訪米。9日、アフリカ4首脳とともにトランプ大統領との会合に出席。また、ビジネス円卓会議において米国の企業家に向けて投資を呼びかけた。(9日 ANG)
- 11日、IMFはギニアビサウの魚の輸出額はカシューナッツの輸出額を上回ると指摘。(10日 ANG)
- 13日、ギニアビサウのビジャゴス諸島が第47回世界遺産委員会において自然遺産に登録された。(13日 O Democrata)
- 18日、食料主権がテーマとなるポルトガル語圏共同体(CPLP)の首脳会合が開催され、エンバロ大統領が議長を務めた。(18日 balai CV)
- 21日、エンバロ大統領はフランスを訪問し、マクロン大統領と会談。(21日 Radio Bantaba)
- 23日、推定30代の男の遺体がマンソア川で発見され、遺族が元大統領警護のママドゥ・タヌ・バリ氏であることを明らかにした。(23日 Radio Sol Mansi)
- 27日、報道機関RTPのジャーナリストが何者かによって襲撃された。(27日 O Democrata)
- 29日、バカリ・ビアイ司法長官が解任され、フェルナンド・ゴメス大統領顧問が司法長官に就任。(29日 DW)
- 30日、中国とポルトガル語圏諸国間の経済貿易協力フォーラム(フォーラム・マカオ)の公式ミッションがビサウを訪問。同訪問は、両国の経済協力関係の強化を目的とする。(30日 Radio Voz Do Povo)

- 31日、エンバロ大統領がママドゥ・タヌ・バリ氏の件について言及。発見された遺体との関連を否定しつつ、タヌ・バリ氏は「失踪した」と述べた。(31日 Radia TV Bantaba)

(注) 本月報は、セネガル、カーボベルデ、ガンビア、ギニアビサウの「報道」を当館限りでまとめたもの。

(了)